

100キロマラソンじゃあーなる

5256

997-0826 鶴岡市美原町30-24

☎0235(22)3669

090-2986-7724 携帯

2009年12月9日



1984年9月15日第1号発行~

初めてマラソンを走ったのが1965年、東京オリンピックの翌年だった。どう
いう訳か地元鶴岡で、当時としては全国的にも稀だったので、全国から
ランナーが来た。NHK鶴岡マラソンという名称で公認大会だということも
あり東北六県に向け、ラジオ実況もありました。その放送で地元の若き
エースと紹介されていたのを憶えている。(ラジオ実況を聴いた人から聞いた)

そのマラソン出場から15年後(即ち1980年)、H氏がホノルルを走る
というのに触発されて、初の海外マラソン挑戦がホノルルマラソンで
した。以来ホノルルには5度出走し、サブスリーも経験できて頗る
集りの良いレースなのだが、如何せん、単独で行くのは語学力の壁も
あり(勿論、宿泊先は殆んどが旅行業者に押えられている)、いずれも
旅行社のツアーに乗って、可成りのぼったくり料金を払いながらの出場
でした。今回はマラソン講座の諸君も数名遠征するというので、100キロ
のラン友にも声をかけたところ(7月頃)賛同者も少くないので6回目の4
人組にする事に決めた。目標はサブ4 ありますが、2月の東京マラ
ソンの叩き台の意味合いも込めて走るつもり、目標を一つに絞れる
程の実力も練習もないので2番目は4時間15分、3番目は4時間35分
としその後「楽しく完走すれば時間には拘泥しない」という自堕落
な最終目標を設定。さて出発予定を明朝に控えても、夜来の
風邪は回復する気配もなく、むしろ今朝よりも悪寒がきつくなってきた
気がする。熱は取れないし、食欲も旺盛だが、気分は最悪!! どうや
ら目標の最下位が目標になりそうです。ではホノルルマラソン記を
お楽しみに……。

うちにその手で顔の汗を拭いた為、顔もベタベタになる始末。途中、目立たない所で
立ち止ましているランナーが見え、自分もどうか迷ったが、なんかまだ我慢できそうだし、
クロロスが嫌だったのでパスしました。中間点は1時間40分06秒で通過。ペースを上げてたの
で余力がある事を実感。さらにアンパン、バナナを補給し、後手のガス欠を防止したく食
はく。時折横から風が吹いて寒かったです。足はすりすり耐えよう。そのうち小さい方がさほど
はかばかなくなり、お腹の違和感も薄くなってきて、安心感と共に暗く暗くした気分に変化してい
ました。10キロ地点は2時間09分06秒、脚はまた動いている。ふおとしたら自己の時間06分06秒を突破
するのは?と確信ははじめました。10キロ過ぎに抜いた気分に途中に抜き返され
付いて行くのが差が縮まらず、あきらめ自分のペースに徹底することに。夕方の着衣が見えて
きた。さすがに苦しくなってきた。脚も重くなってきて、2時間51分06秒を確認。あれ?
意外や意外、このまま来るとはビックリ。あと少しだから、ゴール後も酒が飲めるか、と思うと
少し元気が湧いてきた。大学橋内敷地の道(地点を過ぎ、ゴール手前:坂あり)
4キロ以上走ってきた体にはお別れさく。善後だつたらたいた久配は存いのにと、思いどおり
なりな体が清々な気分です。その付近に退部したセカンドのコーチ陣、元仲間の方から
サブスリーイッけるぞ!!と、力強い応援をいただきました。語った自分に対して心温まる声援に
感動し、応援をか最後の力とふり絞り、限界寸前、トラック内に入りラストスパート、何かが抜いた
のが1キロ抜かれ、最後の直線入ると電光時計:表示が2時間59分51秒と目:飛ぶ必
ぎました。あ、やばい!! 猛ダッシュ(ました)と、計測スタッフの腕時計の位置で反応するの
が疑問でした。手元の時計は1秒速い。記録証と発行してしまつたら、グロス時間04分00秒のビ
賞、ネットは2時間59分26秒でした。存ん死でサブスリーでした。たかが1秒、されど1秒、さ
ういふ時に1秒の重さを知るのは初めてでした。後悔しても後の祭りですが、ど
いかに頑張っていたらばと、た。これは感じに届きました。タイムと意識する
と、どうも足は悪影響を及ぼすようになって、自分の場合は楽しく完走
目指し、リラックスした状態を維持し、10キロ過ぎた
余力も残した戦術の方がサブスリーの方には効いたのではな
かと思ひます。4月:芒川流れ入:ブ
イントリする予定です。地元鶴岡にも立ち寄れるので集
みです。毎地でも日程都合から
は参考になる事を期待しております。今後は勝田の
力が控えて、正しく鶴岡に帰着し、雪の上を走る
予定です。寒く、吹雪く環境は
とてもつらく厳しいです。急
ぎなで走るのみです。小真木で
会える事を楽しみにして
おります。練習頑張ってください。

ハーフで1時間30分だと、サブスリーは限り限りなのですが、前半ぞうい分と力を
温存していたのでしょうか。流石です。車練習の賜物か?

塞